

快適な市民生活を維持するための産業活動において、さまざまな化学物質が使われている現在、市民にとっては化学物質への不安も増大しており、日常生活のくらしや地域社会の中で、化学物質とどう付き合い、どう行動すればいいのか、情報を求めています。

持続可能な循環社会へ転換が進む“変化の時代”の中で、的確な情報交流による「産業界・市民・行政の信頼の醸成」と「課題解決への話し合いの継続」に向けて、円卓会議で話し合うべきテーマ案を以下に記します。

- 市民・企業・行政の三者が主体的に関わる、新しい化学物質管理の方向性への三者合意
- “安心・安全なくらしと社会” の形成に向けて
 - 「化学物質管理パートナーシップ機関（第三者機関）の設置」提案
(第三者機関の性格、および検討する内容案)
 - *市民・企業・行政の化学物質に関するリスクコミュニケーション推進と、必要な課題について話し合いを継続するための、仕組みづくり
 - *円卓会議を発展的に第三者機関として継続することも視野に入れて検討してはいかが
 - * 化学物質の調査研究、影響評価、市民にわかりやすい情報公開、相互コミュニケーションのできる仕組みづくり
 - * 市民が主体的に化学物質問題を学び、考え、行動できるよう、身近でかつ総合的な視点での「学びの場」の確保。
 - * 化学物質に関する全国の活動や環境学習情報の収集と、環境学習・普及啓発の推進
 - *化学物質のリスクコミュニケーションや環境学習推進を担う、人材の育成
 - * 消費者の商品選択の助けとなるよう、商品への化学物質情報の記載方法や、化学物質情報に関する環境ラベルの検討
 - * 家庭にある化学物質や医薬品の回収・処理の仕組みの確立
 - * 化学物質や医療系専門の廃棄物処理業者の状況の把握と情報公開
- 化学物質に関連する省庁間の連携と情報共有のしくみづくり
 - 環境省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・文部科学省など